



# 株式会社オリエンタルランド

東京証券取引所 市場第1部 <証券コード:4661>

## 2010年3月期 第2四半期決算説明会

2009年11月5日

当社グループの事業は、経済情勢、顧客嗜好の変化、天候・災害などの影響を受けやすい特性を持っているため、本資料で述べられている様々な予想や見通しには不確実性が含まれていることをご承知おきください。



## I. 第2四半期決算概要

取締役執行役員 経理部長  
横田 明宜



# 1. 連結損益計算書 (2Q累計実績 / 前年同期)

I. 決算概要

連結損益計算書	2009/3 2Q累計実績 (億円)	2010/3 2Q累計実績 (億円)	増減 (億円)	増減率
売上高	1,810	1,746	△ 64	△ 3.6%
テーマパーク事業	1,425	1,337	△ 87	△ 6.2%
ホテル事業	210	220	9	4.5%
リテイル事業	73	70	△ 2	△ 3.7%
その他の事業	101	117	16	16.3%
営業利益	163	158	△ 4	△ 3.0%
テーマパーク事業	156	122	△ 33	△ 21.7%
ホテル事業	18	37	18	99.5%
リテイル事業	△ 4	△ 1	3	-
その他の事業	△ 7	△ 1	6	-
経常利益	158	154	△ 4	△ 2.5%
四半期純利益	88	95	7	8.6%

テーマパーク事業を中心に減収減益 / 四半期純利益は増益

3



# 1. 主な増減要因 (2Q累計実績 / 前年同期)

I. 決算概要

テーマパーク事業①	2009/3 2Q累計実績	2010/3 2Q累計実績	増減	増減率
売上高	1,425億円	1,337億円	△ 87億円	△ 6.2%
入園者数	1,305万人	1,230万人	△ 75万人	△ 5.7%
ゲスト1人当たり売上高	9,540円	9,473円	△ 67円	△ 0.7%
チケット収入	4,143円	4,108円	△ 35円	△ 0.8%
商品販売収入	3,267円	3,195円	△ 72円	△ 2.2%
飲食販売収入	2,131円	2,170円	39円	1.8%

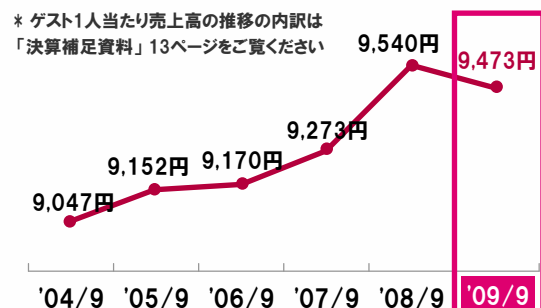
## 入園者数の減

- ・ 東京ディズニーリゾート25周年の翌年による減

## ゲスト1人当たり売上高 ほぼ同様

- ・ 25周年商品販売終了による減
- ・ 「ダッフィー」商品の好調

## ゲスト1人当たり売上高の推移\* (上半期)



入園者数は減少したものの、ゲスト1人当たり売上高は高水準を維持

4



# 1. 主な増減要因 (2Q累計実績 / 前年同期)

I. 決算概要

## テーマパーク事業②

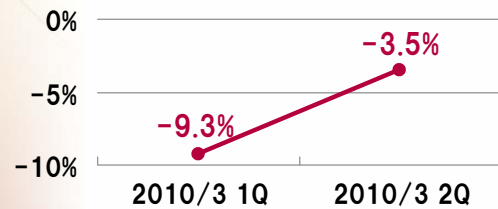
	2009/3 2Q累計実績	2010/3 2Q累計実績	増減	増減率
営業利益	156億円	122億円	△ 33億円	△ 21.7%

### 営業利益の減

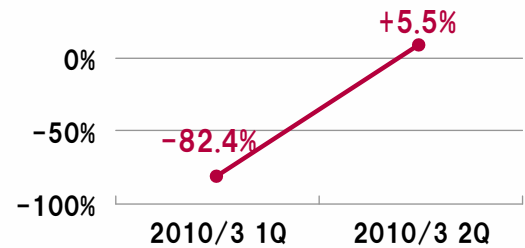
- ・ 売上高の減
- ・ 商品原価率の減
- ・ 減価償却費の減 +8億円

### 四半期別 業績推移 (テーマパーク事業)

売上高 前年同期比 増減率



営業利益 前年同期比 増減率



第2四半期より、テーマパーク事業の業績が好転



# 1. 主な増減要因 (2Q累計実績 / 前年同期)

I. 決算概要

## ホテル事業

	2009/3 2Q累計実績	2010/3 2Q累計実績	増減	増減率
売上高	210億円	220億円	9億円	4.5%
営業利益	18億円	37億円	18億円	99.5%

### 営業利益の増

- ・ 売上高の増
  - － 東京ディズニーランドホテルの通年稼働
  - － 客室稼働率\*の減 \* 客室稼働率・平均客室単価(実績)は、「決算補足資料」4ページをご覧ください
- ※ ただし、平均客室単価\*は維持
- ・ 東京ディズニーランドホテル開業前準備費用の減 +26億円

東京ディズニーランドホテルの通年稼働や開業前準備費用の減により増収増益

## リテール事業

	2009/3 2Q累計実績	2010/3 2Q累計実績	増減	増減率
売上高	73億円	70億円	△ 2億円	△ 3.7%
営業利益	△ 4億円	△ 1億円	3億円	-

店舗人件費などの固定費の低減により増益



## 1. 主な増減要因（2Q累計実績／前年同期）

I. 決算概要

その他の事業	2009/3 2Q累計実績	2010/3 2Q累計実績	増減	増減率
売上高	101億円	117億円	16億円	16.3%
営業利益	△ 7億円	△ 1億円	6億円	-

### 営業損失の改善

- ・シルク・ドゥ・ソレイユ シアター東京 開業前準備費用の減 +6億円

開業前準備費用の減などにより増益

経常利益・純利益	2009/3 2Q累計実績	2010/3 2Q累計実績	増減	増減率
経常利益	158億円	154億円	△ 4億円	△ 2.5%
四半期純利益	88億円	95億円	7億円	8.6%

### 四半期純利益の増

- ・特別損失の減 +8億円

特別損失の減などにより四半期純利益は増益

7



## 2. 連結損益計算書（2Q累計実績／期初予想）

I. 決算概要

連結損益計算書	2010/3 2Q累計期初予想 (億円)	2010/3 2Q累計実績 (億円)	増減 (億円)	増減率
売上高	1,792	1,746	△ 46	△ 2.6%
テーマパーク事業	1,332	1,337	4	0.4%
ホテル事業	250	220	△ 30	△ 12.1%
リテイル事業	77	70	△ 7	△ 9.0%
その他の事業	132	117	△ 14	△ 10.7%
営業利益	141	158	17	12.1%
テーマパーク事業	88	122	33	38.2%
ホテル事業	52	37	△ 15	△ 29.7%
リテイル事業	△ 1	△ 1	0	-
その他の事業	1	△ 1	△ 2	-
経常利益	135	154	19	14.2%
四半期純利益	89	95	5	6.4%

減収となったものの、期初予想に比べ増益

8



## 2. 主な増減要因（2Q累計実績／期初予想）

I. 決算概要

営業利益	2010/3 2Q累計期初予想	2010/3 2Q累計実績	増減	増減率
営業利益	141億円	158億円	17億円	12.1%
テーマパーク事業	88億円	122億円	33億円	38.2%
ホテル事業	52億円	37億円	△ 15億円	△ 29.7%
リテイル事業	△ 1億円	△ 1億円	0億円	-
その他の事業	1億円	△ 1億円	△ 2億円	-

### テーマパーク事業 +33億円

- ・ 入園者数 ほぼ同様
  - － 東京ディズニーシー初のハロウィーンイベントが好調
- ・ ゲスト1人当たり売上高の増
  - － 「ダッフィー」商品の好調
- ・ 商品原価率の減
- ・ 固定経費・諸経費の減 約+10億円
  - － イベント費用、準社員採用費 など
- ・ 下半期への費用の時期ずれ 約+10億円

### ホテル事業 △15億円

- ・ 客室稼働率の減
  - － 予想以上のデフレ環境
  - － 新型インフルエンザの影響
- ・ 固定費の減
  - － 販促活動費 など

好調なテーマパーク事業がホテル事業をカバーし増益

9



## 3. まとめ

I. 決算概要

### 2Q累計実績 対 前年同期

東京ディズニーリゾート25周年の翌年のため、テーマパーク入園者数が減少し、テーマパーク事業を中心に減収減益となった  
ただし、ゲスト1人当たり売上高は前期の高水準を維持

前期発生した新規施設の開業前準備費用（32億円）、および特別損失が減少し、四半期純利益は増益となった

### 2Q累計実績 対 期初予想

好調なテーマパーク事業がホテル事業をカバーし増益となった

第1四半期は減益となったものの、第2四半期（7月～9月）に増益となったことから、累計で増益となった

10





## II. 今後の見通し

代表取締役社長(兼)COO  
上西 京一郎



### 1. 通期 連結損益計算書(修正予想/期初予想)

II. 今後の見通し

連結損益計算書	通期 期初予想 (億円)	通期 修正予想 (億円)	増減 (億円)	増減率
売上高	3,700	3,645	△ 54	△ 1.5%
テーマパーク事業	2,776	2,799	22	0.8%
ホテル事業	494	440	△ 54	△ 11.0%
リテイル事業	166	159	△ 7	△ 4.3%
その他の事業	262	246	△ 15	△ 6.1%
営業利益	341	341	-	-
テーマパーク事業	234	267	33	14.1%
ホテル事業	99	70	△ 29	△ 29.3%
リテイル事業	2	4	1	53.6%
その他の事業	3	△ 0	△ 4	-
経常利益	326	326	-	-
当期純利益	206	206	-	-

減収となるものの、利益は変更なし



# 1. 主な増減要因（修正予想／期初予想）

## II. 今後の見通し

テーマパーク事業	通期 期初予想	通期 修正予想	増減	増減率
売上高	2,776億円	2,799億円	22億円	0.8%
営業利益	234億円	267億円	33億円	14.1%
入園者数	2,560万人	2,560万人	-	-
ゲスト1人当たり売上高	9,450円	9,550円	100円	1.1%
チケット収入	4,220円	4,200円	△ 20円	△ 0.5%
商品販売収入	3,110円	3,210円	100円	3.2%
飲食販売収入	2,120円	2,140円	20円	0.9%

### 売上高の増

- ・ 入園者数 期初予想通り
- ・ ゲスト1人当たり売上高の増  
－ 「ダッフィー」商品の好調

### 営業利益の増

- ・ 売上高の増
- ・ 商品原価率の減
- ・ 固定経費・諸経費の減 約+10億円  
－ イベント費用、準社員採用費 など

ゲスト1人当たり売上高の増加と、費用の減少により増収増益

13



# 1. 主な増減要因（修正予想／期初予想）

## II. 今後の見通し

ホテル事業	通期 期初予想	通期 修正予想	増減	増減率
売上高	494億円	440億円	△ 54億円	△ 11.0%
営業利益	99億円	70億円	△ 29億円	△ 29.3%

### 営業利益の減

- ・ 客室稼働率\*の減  
\* 客室稼働率・平均客室単価（予想）は、「決算補足資料」8ページをご覧ください
- ・ 固定費の減 約+5億円  
－ 販促活動費 など

### 今後の対応策

- ・ ディズニーホテルならではの付加価値の付与  
－ 「東京ディズニーランド・ハッピー15エントリー」の実施（2009年9月1日～2010年3月31日）  
－ 「パッケージ・パッケージ」の販売強化
- ・ レベニュー・マネジメントの強化  
－ 客室カレンダー（繁閑に応じた客室料金設定）の見直し（2010年4月1日～）
- ・ 固定費の抑制

客室稼働率の減により減収減益

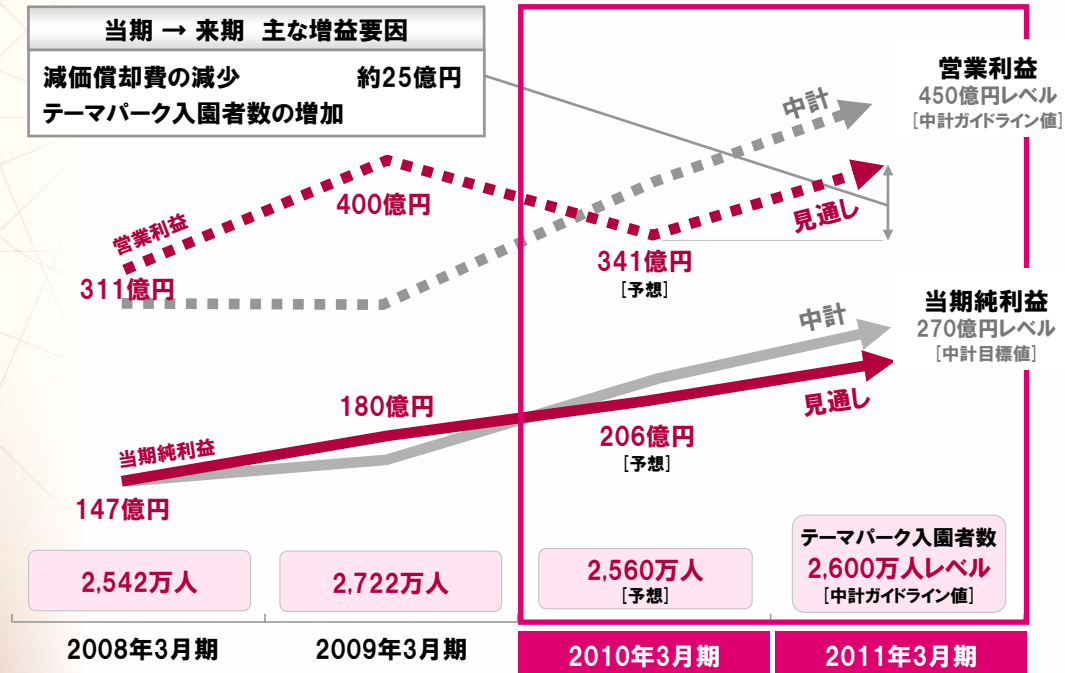
14



## 2. 来期の見通し - 損益見通し

II. 今後の見通し

### 営業利益・当期純利益の増加



来期は増益となる見通し

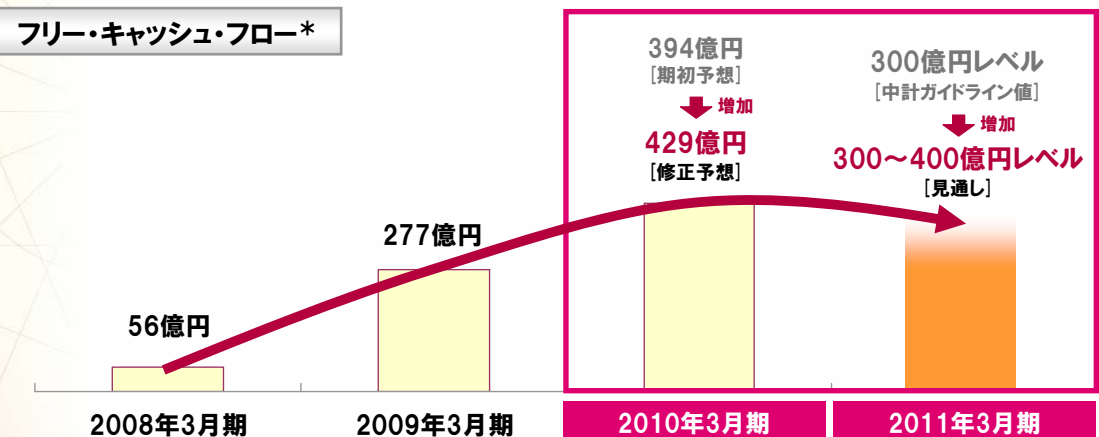
15



## 2. 来期の見通し - フリー・キャッシュ・フロー見通し

II. 今後の見通し

### フリー・キャッシュ・フローの増加



\*フリー・キャッシュ・フロー＝当期純利益＋減価償却費－設備投資額

### フリー・キャッシュ・フローの配分

有利子負債の削減

株主への直接的な利益還元

設備投資額の減少により、フリー・キャッシュ・フローが増加

16



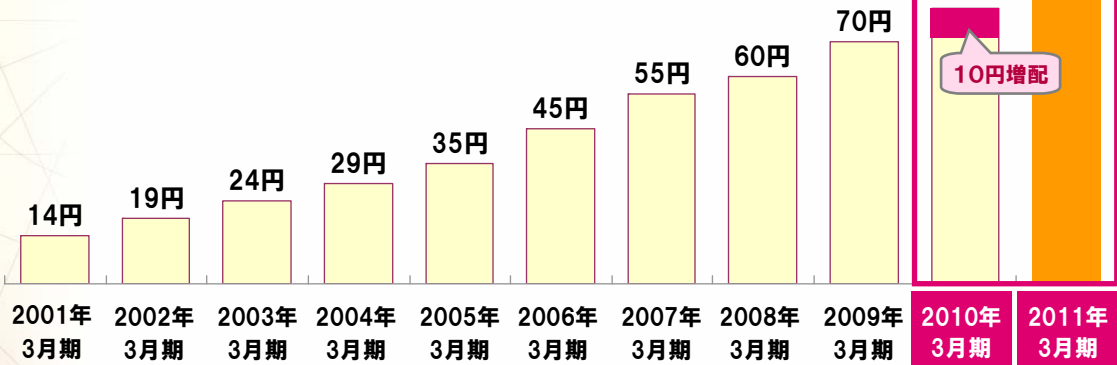


### 3. 株主還元

II. 今後の見通し

配当 - 連結配当性向35%以上（2008年3月期より実施）

1株当たり年間配当額



#### 自己株式

- ・ 2009年5月 自己株式420万株を消却
- ・ 自己株式取得の検討

#### ROEの向上

- ・ なるべく早期に8%以上になることを目指していく

中計通り株主還元を実施



### 4. まとめ

II. 今後の見通し

#### 通期業績予想

期初予想に比べ、ホテル事業が減収減益となるものの、テーマパーク事業が増収増益となる見込みのため、連結の営業利益・経常利益・当期純利益は変更しない

#### 来期の見通し

来期見通しに変更なく、増益となる見込み